



明けまして おめでとうございます
園を通じて縁をつなぐ

まみころ会役員の皆様を中心に「日本舞踊とピアノコンサートとバザー」と「アフターイベント（まみころ忘年会）」を企画していただきました。役員の皆様、参加していただいた皆様、ありがとうございました。

縁あって、同世代のお子さまを持つ保護者の方たちが、当保育園に通ってくださっています。日々、慌ただしく過ぎる中で、同じような悩みを持つ仲間との交流は、“自分だけではない”とホッとできると共に、元気をもらい“一緒に楽しいことをする力”に変わっていきます。

今年も保育園を通じて皆様の縁がつながり、一緒に楽しい時間を過ごしていきたいと思います。本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

日本の伝統行事

餅つき実行委員の皆様、前日までの用具の準備から、駐車場の誘導、当日の司会進行、餅を丸める等の役割分担をしていただき、餅つき会を滞りなく開催することができました。

近年、親族みんなが集まって、それぞれに役割分担しながら、お餅つきを行う家庭は少なくなってきました。大人でも、お餅つきで、つくことは知っていても、お米を蒸したり、こねたりする過程を経験して、知っている方は少ないのではないのでしょうか。

二人でお餅つきするには、つくのと手返しとで、相手の呼吸に合わせる必要があります。保育園の行事で夫婦や仲間と一緒に、呼吸を合わせて楽しんでいただけたことと思います。

年長児は運動会から、運動あそびを楽しんできたため、縄跳びの披露をしました。当日の姿を見て、こどもたちがお餅つき会で披露するという目標に向かって、縄跳びを個人で楽しむと共に、仲間に刺激されながら向き合ってきたことを感じました。

縄跳びは「縄を回しながら、縄が下に来たことを目で見て確認して、跳ぶ」と、複数の作業を同時にこなさなくてはならず、こどもにとっては難しい課題です。

そのため、年長になったらできるものではありません。乳児期からボタンはめや、洗濯ばさみで帽子をはさむ、ハサミで紙を切る等、目と手を十分に使うことや、ハイハイ、散歩、追いかかけあそび、両足ジャンプ等で身体全体を十分に動かすことで育まれていきます。

寒い季節で動くことも躊躇われますが、日中の日差しのある間に身体を動かしたり、意識的に生活の場面で出来ることを促したりしていきたいですね。



鼻水の色を見て見よう

透明

気温の変化によるものやかぜの初期症状の場合に見られます。鼻水は垂れたままにしていると肌荒れの原因になるので注意が必要です。

黄色から緑色

細菌に感染している可能性があり、緑色に近いほど症状が悪いので早めに病院へ行きましょう。また、透明の鼻水に比べてドロツとしているため、鼻の奥で溜まってしまうことがあります。その時は加湿などを行い、鼻水を出しやすくしましょう。

絵本コーナーに新しい仲間たち登場！

- ① 西伊場町「福寿会」の方からのご寄付で、乳児絵本や昔話紙芝居を購入させていただきました。
- ② 食べ物絵本
- ③ 「みんなのよみかせ絵本大賞」に応募しうち coopさんより絵本を 20 冊いただきました！

こどもを膝に入れて絵本が読めるのは、今の時期だけです。こどもは膝に入ることと安心して、お話の世界を楽しむことができます。

日々、お忙しい中ですが、今しかできない親子の触れ合いの時間を一緒に楽しんでいただきたいと思います。

1月の目標

ひよこ … 寒さに負けず身体を動かして遊ぼう。
こりす・りす … 自分でできた喜びを感じ、いろいろなことに挑戦しよう。
うさぎ … 保育者や友だちとイメージを共有してごっこ遊びを楽しもう。
あおむし … 遊びの中で友だちと想いを伝え合おう。
さなぎ … 仲間と思いやイメージを一つにしながら楽しむ。
ちょう … 遊びや話し合いを通して、友だちと気持ちを伝え合おう。
異年齢 … チームの活動やごっこ遊び・劇遊びを通してチームの友だちと繋がろう。

ひよこ組（1才4か月 1君）

I：保育者と一緒に手洗いをしに水道へ来た。

保：いつものようにIの手に泡を付け、洗い始めようとする。

I：抵抗するように腕に力が入り、洗うことができない。

保：嫌だったかな？何かやりたい事があるのかな？いつもとは違う姿に、少し様子を見守ってみることにした。

I：手についた泡をじっと見ている。しばらくすると反対の指先で泡を触りだす。しばらく指先で泡を堪能すると、保育者の方を振り向き、ニコリと笑う。

保：「泡あわだねえ。じゃあごしごししよう。泡あわ、ばいば〜い！」

I：今度は抵抗することなく、一緒に手を擦り合わせ手洗いができた。

～保育者より～

生活の色々な場面で“もっとやりたい！”“こうしたい！”と自分の思いを訴えたり、思うようにいかず泣いて怒ったりする姿が増えてきたひよこ組の子ども達。“いつも同じ”安心感の中で過ごしながら、大人にとっては何気ない日常の一コマも、子ども達にとっては新たな発見や世界が広がる瞬間があり、“いつも同じ”ばかりではないのだと感じました。子どもの身振り手振り、表情から発信されている思いを受け止めながら、心の動く様子を感じ、子どもの意欲を大切に過ごしていきたいと思っています。